

# 奥尻航路における地域公共交通確保維持改善事業の概要

## 事業実施の目的・必要性

奥尻島と本土とを結ぶ唯一の航路である「江差～奥尻航路」は、島民の本土との往来に加え、島内工事に伴う車両や物資、新聞や宅配便などの輸送を担うとともに、観光客の移動手段としても多く利用されている重要な航路であり、本航路の利用が不可欠な状況にある。

離島住民は人口は、昭和35年の7,908人をピークに年々減少しており、令和6年1月末現在では2,257人となっているなど、航路を取り巻く環境は非常に厳しい状況が続いている。事業者は、運航経費の削減に加え、奥尻町と連携した利用促進等に努めてきたものの、事業者単独で航路を維持していくことは困難な状況にあり、今後も安定した航路運営を図り維持していくためには、公的な支援が必要な状況にある。

## 生活交通確保維持改善計画の目標

本航路における年間利用者を見ると、令和元年～2年では、全体の約4割が島民利用となっており、残る6割が、工事関係者や観光客などが占めているが、今後は、人口減少に伴い、町民利用を増やすことは難しいと考えられることから、観光関連事業者へのセールス強化、個人旅行者へのホームページ及びSNSなどを利用した情報発信の更なる強化、リピート客増加や新規顧客開拓を目的とした商品開発に取り組んで一般旅客数の増加に努めていく必要がある。

補助対象年度である令和5年度(令和4年10月～令和5年9月)については、新型コロナウイルス感染症の影響による旅客の動向見通しは不透明であるが、定量的目標はコロナ禍以前の44,588人とし、可能な限り欠損額の増加の抑制に努める。

## 令和5年度事業概要

奥尻島と本土とを結ぶ唯一の航路であり、島民の本土との往来に加え、島内工事に伴う車両や物資、新聞や宅配便などの輸送を担うとともに、観光客の移動手段としても多く利用されている重要な航路である。

通常は1日2便運航であるが、繁忙期等(4月29日～5月8日、7月1日～8月31日)においては1日4便の運航をすることとしている他、島内で使用する工事車両の運搬のため臨時便を運航している。

## 地域公共交通の現状

江差側	函館バス(株)	フェリー乗場前から函館市、木古内町、熊石方面などの14系統が停車
奥尻側	町営バス	フェリー乗場前から北部・南部方面が停車
	JAL	奥尻空港から函館空港、丘珠空港へ運航

## 協議会開催状況

- 令和5年度第1回協議会  
令和5年度離島航路確保維持計画案の検討

# 令和5年度 事業の実施状況

## プロセス、創意工夫

航路事業者は、離島航路事業運航計画に基づき、観光関係事業者へのセールス強化や個人旅行者へのホームページやSNSを活用した情報発信などの更なる強化に取り組んだ他、関係機関と連携し、次のとおり事業を行った。

### ①奥尻町と連携した取組

来島者が、体験プログラムに参加し、対象施設に宿泊した場合、帰りのフェリー運賃が無料になるキャンペーンを実施。

観光客を乗せた長さ6m以上の観光バスで、島内の飲食店等を利用した場合や、宿泊施設を利用した場合、フェリー復路のバス航送料を助成。

### ②北海道檜山振興局と連携した取組

札幌でのイベントや、SNSキャンペーンにて、フェリー往復チケットが当たる等の観光PRを実施したほか、有識者を招聘し、船旅の魅力向上のため、船内マップの作成や船内売店での地元グルメを充実するよう助言を実施。

### ③フェリー会社の主な取組

オリジナルガイドブックや、ライダーフラッグの制作による利用促進  
奥尻・江差営業所の人員削減など



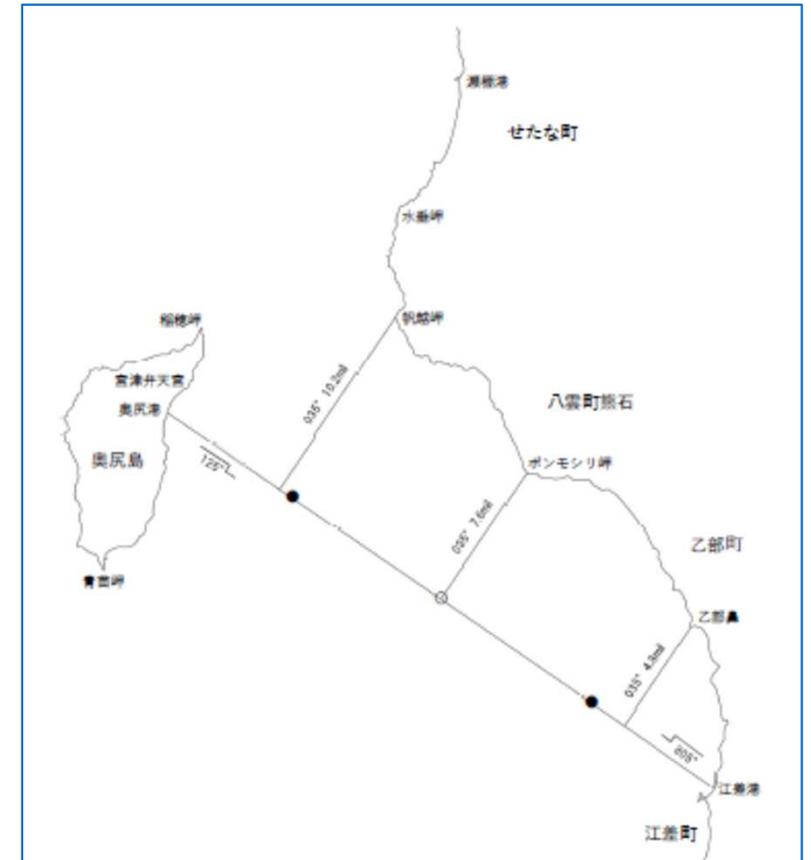
## 運航航路

航路名：奥尻航路（起点 江差港～ 終点 奥尻港）

港間距離：61 km

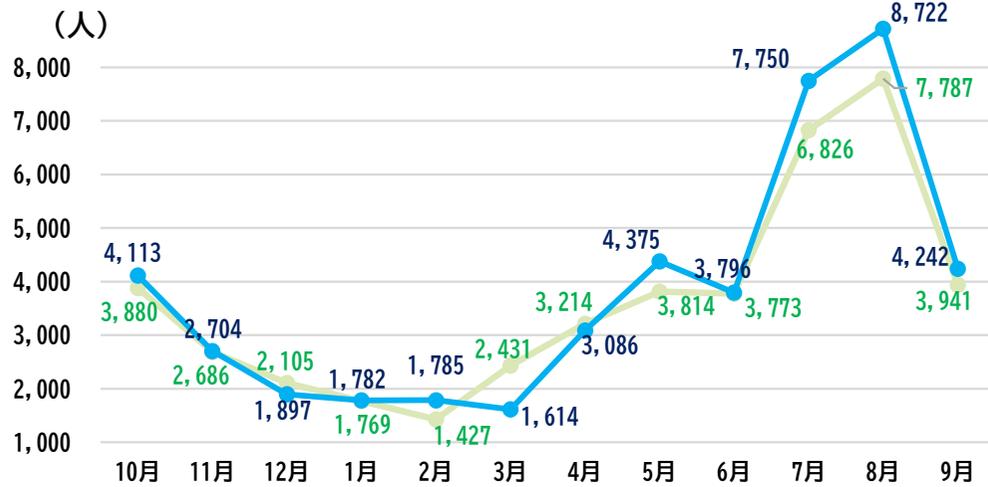
所要時間：130分

運行ルート図：以下のとおり

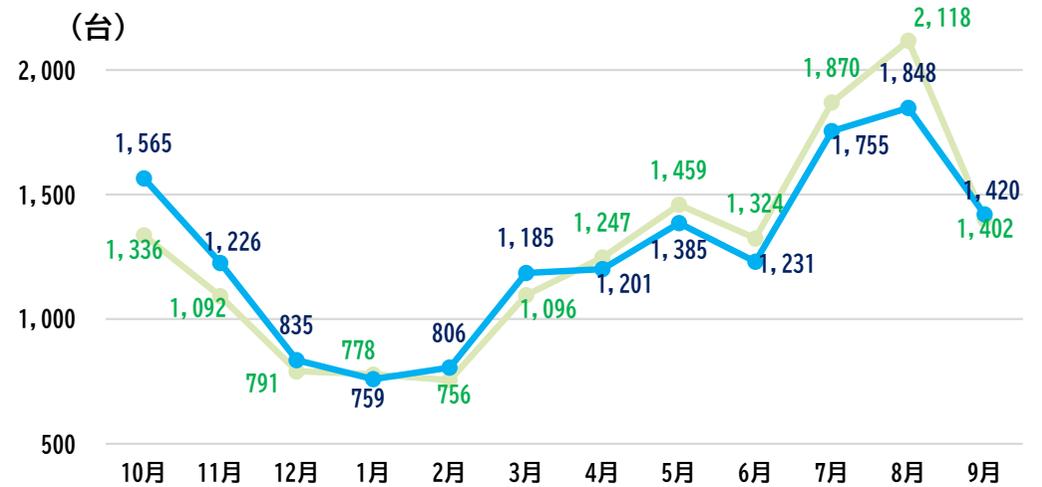


# 令和5年度 旅客・貨物の輸送状況

旅客輸送 R4:43,653人 R5:45,866人 ※小人1人換算



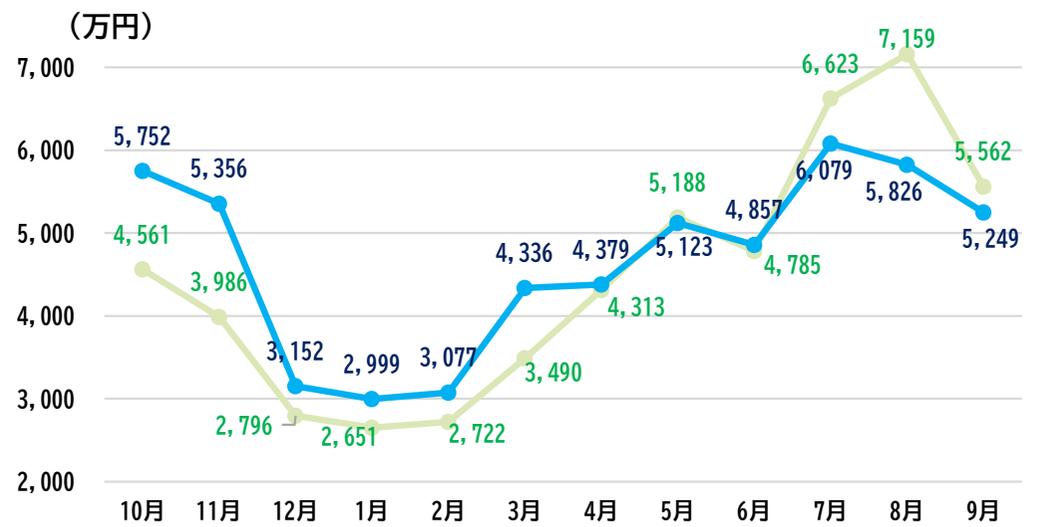
車両航送 R4:15,269台 R5:15,216台



旅客運賃 R4:11,646万円 R5:14,029万円



車両航送運賃 R4:53,835万円 R5:56,179万円



# 令和5年度 達成状況及び改善点

## 事業実施の適切性及び目標・効果の達成状況

運航計画に沿って適切に実施された。 計画時の見込に対する達成状況については次のとおり。

	計画値	実績値	差	達成率
旅客輸送実績	44,588 人	45,049 人	461 人	102.9 %
自動車航送実績	12,593 台	15,216 台	2,623 台	120.8 %
旅客運賃	135,080 千円	140,282 千円	5,202 千円	103.9 %
自動車航送運賃	421,093 千円	561,786 千円	140,693 千円	133.4 %
収入合計	574,576 千円	741,543 千円	166,967 千円	129.1 %
燃料潤滑油費	90,238 千円	160,551 千円	70,313 千円	177.9 %
費用合計	702,689 千円	786,538 千円	83,849 千円	111.9 %
純損失	128,113 千円	44,995 千円	83,118 千円	284.7%

利用客人数(※)・自動車航送量が計画より上回り、収入額としては計画値より166,967千円上回る計741,543千円となった。 ※小人0.5人換算費用については、燃料潤滑油費や船舶修繕費が増加したが、店費の削減等により抑制し、計画値より83,849千円多い計786,538千円となった。結果、欠損額としては計画値から83,118千円抑制し、計44,995千円となった。

## 事業の今後の改善点

各種プロモーション活動や広告宣伝事業の実施については、地域の様々な関係機関と連携しながら、継続して取り組むとともに、より一層の経費削減を行い欠損額の抑制に努める必要がある。

## 地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

(令和6年度分と併せて評価)